

グループホームやすらぎ

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次にステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスとしての意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	入居者に書いていただいた理念をディールーム及びエレベーター前に掲示し入居者の立場に立ったサービスの提供を職員に伝えている	福祉支援の基本方針を「共に生きる」とし、これを理念としている。この文字は入居者に書いてもらい額装してGHに通じるエレベーター前に掲げられている。出勤時には全員がこの啓蒙の受け支援の精神を新たにしている	入居者に対する福祉目的の支援は認識されている。リビングには地域密着型の意義を踏まえた文言も別に掲示もされてはどうか。
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	近隣の町会の行事に参加、ボランティアの受け入れ、職場体験学習の受け入れ等を実施している。	従来から近隣との付き合いは広く公民館祭り参加、町内会交流、中学生の訪問、傾聴ボランティア、琴尺八ボランティアの受け入れなどがされている。今年はコロナウィルス感染防止の為、大幅な活動の中断が余儀なくされている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	久米田病院の医師や認知症ケア専門士の資格を持つ看護師が地域包括支援センターと共に認知症についての市民講座を開催。RUN伴も行っている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は奇数月の第3週に決めて行っている。避難訓練や災害対応等ご家族様に報告しご意見を伺うとともに安心していただいている。	地域包括センター、町会長、介護相談員、家族代表が参加し入居者の生活状況報告や施設内行事の進捗状況、あるいは家族の運営に対する要望などを検討している。	コロナウィルス感染の懸念がある内はSkype等の環境が整備されているようなので参加者にこの方法を知らせてあげ全員が利用できるようにされてはどうか。
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議の議事録を持っていくときに話を伝え助言を頂けるようにしている。コロナウィルスの対応なども助言をいただいている。	コロナウィルス感染拡大防止の為、市の承諾を得た上で会議は2回中止をした。普段は入居者との話し合いで相違が生じた事も相談を求めたりしている。特に今年最新のウィルス防止対策について情報を得よう努めている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束しないケアに取り組んでいる	身体拘束等の適正化のための指針を整備し、勉強会も行っている。玄関は遅出が出勤時から日勤退社時まで開錠。点滴時も看護師が付き添うなどし、身体拘束は行わない方針です。	重要事項説明書に身体拘束はしないと明確に示されている。これを確実にする為に二ヶ月毎に身体拘束等適正委員会を開催している。高齢者虐待防止の外部研修も実施し職員の認識を新たなものとしている。施設の出入り口は施錠しないようにして自由な暮らしの雰囲気を感じてもらっている。	直接入居者の自由に関わる事項であり職員の質の高い認識が要求される支援でもある。これからも研修や勉強会などで認識を深められ拘束のない福祉支援の継続を目指して下さい。
7		○虐待防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修に参加し 報告を聞き資料など閲覧している。リスクマネジメント会議や認知症ケア会議を行い振り返りを行っている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護について研修に参加し 会議などで話題にしている。子供がおられないご家族様には説明し地域包括支援センターに相談し支援につなげている		

9	<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>十分に時間を取り説明し理解を得られている</p>		
10	<p>○運営に関する利用者、家族等意見の反映</p> <p>利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>利用者の意見は速やかに対応し介護相談員や傾聴ボランティアにも相談等が出る。家族様は来所時や運営推進会議 家族会で意見を出せる場がありスタッフで話し合い反映させている</p>	<p>家族は訪問時によく職員と会話され要望や提案などを行っている。話しやすい環境が可能にしている。家族会のように皆が一同に集会出来る機会がある事も開かれた運営に繋がっている。</p>	<p>施設と家族の関係がいつでも自由に話せやすい状況にある事がアンケート調査で確認されている。この関係を大切にされ家族の意見がいつでも吸収できるような支援体制を堅持されて下さい。</p>
11	<p>○運営に関する職員意見の反映</p> <p>代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>	<p>職員の入退者で生じる問題や業務内容の変更もスタッフの意見を反映し、理解していただけるよう努力している。職員と施設長が面談する機会を設け反映させている</p>	<p>基本的には運営推進会議で発議されているが、法人の施設長はよく一二階を廻られ職員と話されている。その際に意見や要望などについてよく聞かれ反映するよう図られている。</p>	
12	<p>○就業環境の整備</p> <p>代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている</p>	<p>代表者は病院の理事長であり話し合いなどはありませんが就業規定に定義されており管理者が勤務表を作る時 各自の希望を聞いたりしている。</p>		
13	<p>○職員を育てる取組み</p> <p>代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際の力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>資格取得推進の為の協力は惜しみません スタッフの個々に応じた研修の受講を実施しており実践者研修・リーダー研修についても環境が整い次第行っていただく予定です</p>		
14	<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている</p>	<p>「アムール岸和田」で認知症カフェを共同開催。また、大阪緑ヶ丘の緑カフェにも参加し取り組みや環境を實際目で見て考えていただいている 事業者連絡会にも参加している。</p>		

II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
15	○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居時までには、センター方式を利用し入居者様を理解し会話時に的確に対応できるようにし安心につなげている。また施設に来ていただいたり 家庭訪問もしている		
16	○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居に関する質問などは時間をかけて何度も対応し、病気の対応については看護師に要望を聞いてもらうなど安心して入居できるように努めている		
17	○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	センター方式でその方の今後の望む生活を知り、看護師や理学療法士、作業療法士の力を借りながら的確で安心できる環境整備に努めている。		
18	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者の方々の会話を見守っていると良質な援助につながることもあり、何事も本人の気持ちを確かめながら一緒に行う事を基本とし 理念の通り支援している		
19	○本人と共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族様も事情があり、意見が食い違う場合は入居者の視点でお願いする事がある。今年Skypeやfacetimeを利用し家族様とのきずなが細くならない援助も行なっている。		
20	8 ○馴染みの人や場と関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	個々の馴染みの人や場所ではないが岸和田城、トンボ池公園 マドカホール等 入居者が足を運んだと思われる場所に出かけている 久米田寺の月参りにも出かけている	近況に於いては入居者は殆どが近傍の場所に馴染んでおられる。また、地域密着型ホームである事から入居者は外出場所に適度な思い出を持っておられる方が多い。	入居者本人からの直接の意志による希望があるならば家族と相談され、実現可能な範囲内で家族の協力のもとで支援をされるようお願いしたい。
21	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	1ユニットなので関係が難しい場面もあるが、散歩やレクリエーション、リハビリを通じて関わりを深め、時には席替えを行い支え合える支援に努めている		
22	○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	久米田病院の認知症病棟に入院する方が多く往診の医師や病棟の師長から様子を聞くこともでき、家族様に出会い近況を伺った際、相談を受けることもある		

### Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント

23	9	○思いやり意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	家族様からの情報提供と共に都度本人の言葉に耳を傾け 把握が困難な場合は担当スタッフを交えたカンファレンスを行い寄り添う援助を行っている。	家族からの情報は正確な判断に繋がりやすい。また理学療法士の意見も参考にしている。職員どうしがよく話し合い入居者の意向に沿うように支援している。	入居者の立場に立って物事を考えるという(ハーツ・センター)方法は入居者の心理を知る上で最も有効な手段といわれている。参考にさせて頂きたい。
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時まで、これまでの暮らしや思考をスタッフが理解出来るようにセンター方式を利用し、入居後は経過把握用紙を使い会話を書き留め共有している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	朝夕の申し送り、連絡ノート、カンファレンス等で現状を把握共有している。また、入居後数日は経過把握用紙に記載し心身状態の流れを把握共有している		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	介護計画は3か月ごとに理学療法士、看護師、主に担当スタッフのモニタリングを参考にカンファレンスを行い暮らしに密着した計画を作成し家族様にも理解していただいている。	看護師や職員、家族の意見要望も加え理学療法士の助言も取り入れた介護計画を策定している。短期3ヶ月で見直しをする事は、入居者の体調に一番適した支援を可能にしている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別記録は共有し出勤時個々に読み把握している。毎日の個別記録を参考にし介護計画の見直しやカンファレンスを行い看護師や理学療法士にも助言をもらっている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	階下のディケアゆうパルに理学療法士と作業療法士がいるので 歩行 睡眠 嚥下等 多岐にわたり気軽に相談でき対応してくれる。やすらぎの入居者とも顔なじみの関係となっている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	傾聴ボランティアの受け入れ 生け花が好きな入居者のために他のグループホームの生け花カフェにも出かけるなど色々な催しに出かけ交流をしている。		
30	11	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	併設病院に認知症病棟がある為、かかりつけ医を併設病院の内科医師に希望される方が多い。休日、夜間等緊急時の対応は 併設病院の医師 看護師に連絡し適切に支援している。	協力病院が久米田病院である事を説明し受診を願っている。夜間や休日の緊急時対応もしている。(併設に認知症病棟がある) 往診は月2回されている。他に亀井病院(外科)、下井戸歯科がある。	

31	○看護職員との協働  介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるよう支援している	看護師は階下のディケア兼務で午後やすらぎに来所 日々の状況をリーダーから説明を受け、気づきがあれば職員に適切に指示している。看護師不在の緊急時には併設病院の看護師に相談している		
32	○入退院時の医療機関との協働  利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院時には情報提供表を使用し適切に対応していただけるように配慮している 併設の病院には看護師や管理者が出向き情報交換している。		
33	12 ○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援  重度化した場合や、終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に重要事項説明書の説明と共に方針も伝えている。ただ、なかなか実感される家族様は少ない為 ある程度の時期に家族様と再度向き合って対話している。	入所時に施設での支援体制を丁寧に説明し納得された上で入所願っている。医師の判断で容態が重度化の方向にあるとされた場合は、今後の方針について再度話し合われる。医療介護が必要な場合は家族から入院への承諾をもらっている。	
34	○急変や事故発生時の備え  利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急対応マニュアルも有意義に活用しており 救急に至る前の段階で気づくことが出来るよう変化を共有している緊急時は看護師や併設病院との連携を想定したマニュアルも貼って		
35	13 ○災害対策  火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練を実施 町内会、併設病院等協力体制はお願いしている 防災の会議を開き備品も購入 栄養課と連携し保存食も準備している 施設外に避難する時に首にかけるとともに、防災連絡票も作り置いている	避難訓練は年2回実施し1回は消防署の立ち会いも求めている。火災発生を想定し昼と夜に分けて実施する。警報装置作動と同時にマニュアルに従って入居者を実際に階下へ誘導する。訓練途中でハプニングも体験され大きな勉強になったと話されていた。	火災発生時の訓練は臨場感があり非常事態では想定外の出来事も起こる事も体験された。今後、火災による煙からの逃避も含め、地震や水害の対応も視野にいたれた避難訓練も検討をさせて頂きたい。

#### IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	居室への訪問は必ずノックし声かけを行い言葉かけについては認知症ケア会議などで繰り返し意識付けを行っている	一人の立場に立って物事を考えるようにしている。入居者には「～さん」と静かに話しかけている。認知症ケア会議を始めとし接遇の研修も合わせて年数回は受講するようにスキルアップに努めている。	日々の支援上の馴れからくる何気ない言葉の一つが入居者に思わぬ感情を与えてしまう事がある。怠らぬ自己研鑽をこれからもお願いしたい。
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	個別対応を大切にしている 言葉にならない行動には「どうされましたか?」と問うことで考えることを支援している		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入床、起床時間は決めていない。何もしない生活は認知症を進行させてしまうので朝コーヒーを飲みながら皆で日課の散歩やレクリエーションの内容を決めている		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	衣類はご自身で選んでもらい、出来ない方もスタッフが見せ二者択一で選んでもらっている。訪問理美容師もお願いしている。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	盛り付けや片付けは入居者の方と職員が一緒に行っているがコロナウイルス対策もあり現在は職員は検食のみとし一緒に食事をしていない。	食事は久米田病院の管理栄養士が作り此方で温めている。入居者のなかには盛り付けやあと片付けを手伝う方もいてやり甲斐を感じられている。今年は感染予防、防止という観点から職員と入居者は別々に食事をしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、集会に応じた支援をしている	管理栄養士による臥立で病気の内容によって相談に応じて下さる。水分摂取が難しい入居者には補水ゼリーを使用しディールームにお茶を常備し自由に飲んでいただいている		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	各自、食後すぐに口腔ケアの声掛けを行い 援助している。義歯は夜間、洗浄液につけ清潔を保持している		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄パターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。	生活リズムを整えると 全介助からトイレに行くことが出来るまで回復された方がおられた。失禁には羞恥心が伴うため排泄時間を吟味し誘導を行っている。	かつての経験も活かされ生活リズムの大切さを認識されている。今は理学療法士のアドバイスも参考にされその人の合わせた自立支援を実施している。	日数をかけた息の長い支援が求められる。成果を焦らねないよう粘り強く支援をされ続けられるようお願いしたい。
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分摂取の確保 朝食時、おやつ時 フルーツの提供も多く散歩や竹踏み レクリエーションなどの運動量も便秘の予防対策として対応している		

45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	入浴の時間帯、曜日は決めているが本人のタイミングや希望、体調により臨機応変に対応している。場合によっては 階下ディケアゆうバルの大浴場を利用できる。	入浴は週3回実施されている。中には拒まれる方もいるが時間差で話しかけられて誘うようにしている。特徴的なのはバスルームの一面はガラス張りになっており植樹された庭も見える点である。ここには閉鎖感というものはない。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	起床、入床時間は決めていない。散歩やレクの合間は居室で臥床したり自由に生活している 昼夜同じスタッフのローテーションなので 信頼関係を密に支援している		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や要領について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬リストは職員がいつでも見られるようにし、服薬変更は看護師、管理者から説明している。症状の変化は記録に残し共有している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	食事の準備、片付け、洗濯干しなど個人の力を見極め手伝ってもらっている。毎日、午前中の光を浴びながら散歩等に外出することが一番 気分転換になっている		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天候によるがコロナウイルス対策でマスクをしながら近隣を散歩に出かけている。現在買い物には行けない。環境公園等の空気のきれいな場所にはマスク着用で出かけている。	岸城神社には毎年初詣に出かけている。久米田寺の参拝はよく出かける。時には岸和田城まで遠出する事もある。普段は近くの池や公園に出かけたりしている。施設が久米田公園の近くにある事から外出先が選びやすい環境にあるといえる。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	数人の方がお金を所持している 月参りのお寺にお賽銭を出したり食券売り場でコインを投入する等出来ることを支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している	公衆電話も設置している。コロナウイルス対策でSkype等で会話できるようにしている。携帯電話を持参される入居者もおられる。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節ごとに利用者と一緒にディールームの壁面飾りを作成。周囲に大きな建造物がないため静かな環境が保たれている。中庭からの採光があり温度計の設置 空気清浄機の設置等 居心地のよい環境にしている。	共用空間の中央にはガラス張り囲まれた吹き抜けの空間が見え自然採光を受けている。壁には職員と入居者が合作した季節物の作品が掲げられ楽しい雰囲気が演出されている。全体的な色調や仕様は大人的に仕上げられ長時間ゆっくりと寛げる空間である。	

53	<p>○共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている</p>	<p>共有空間は有意義に活用し廊下やテレビの周りにソファを置くなど工夫している。廊下の椅子に座り中庭を眺める方もおられ自由に過ごすことが出来る。</p>		
54	<p>○居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>居室内も広い為、個人の愛着のある家具等を配置している。多くの写真や飾り物を持って来られる家族様もおられる。生け花が好きな方はご自身で活け居心地よく生活している。</p>	<p>居室の奥の外窓には障子が入って和風感覚であり採光もよく明るい。電動ベッドは就寝、離床時に高低調整できる。愛用の家具や装飾品が置かれ生活感もある。定期的な布団干し、シーツ交換で清潔さを維持している。</p>	
55	<p>○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している</p>	<p>表札は漢字に振り仮名をふり理解が難しい方や背の低い方には目線に合わせた位置に表札を作っている。トイレの使い方、風呂場もわかりやすく表示している。</p>		



## V アウトカム項目

56	職員は利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目：23, 24, 25)	○	①ほぼ全ての利用者の ②利用者の3分の2くらいの ③利用者の3分の1くらいの ④ほとんど掴んでいない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目：18, 38)	○	①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目：38)	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいの ③利用者の3分の1くらいの ④ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目：36, 37)	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいの ③利用者の3分の1くらいの ④ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目：49)	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいの ③利用者の3分の1くらいの ④ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目：30, 31)	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいの ③利用者の3分の1くらいの ④ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目：28)	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいの ③利用者の3分の1くらいの ④ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目：9, 10, 19)	○	①ほぼ全ての家族と ②家族の3分の2くらいと ③家族の3分の1くらいと ④ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねてきている (参考項目：9, 10, 19)	○	①ほぼ毎日のように ②数日に1回程度 ③たまに ④ほとんどいない

65	<p>運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目：4)</p>	○	<p>①大いに増えている ②少しずつ増えている ③あまり増えていない ④全くいない</p>
66	<p>職員は、生き活きと働けている (参考項目：11, 12)</p>	○	<p>①ほぼ全ての職員が ②職員の3分の2くらいが ③職員の3分の1くらいが ④ほとんどいない</p>
67	<p>職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う</p>	○	<p>①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない</p>
68	<p>職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う</p>	○	<p>①ほぼ全ての家族等が ②家族の3分の2くらいが ③家族の3分の1くらいが ④ほとんどできていない</p>